

番外編 自分で資料を探るとき

検索エンジンで出てこなかったらどうする？ (はじめの一步のヒント)



埼玉県立熊谷図書館
人文・社会科学資料担当
熊谷市箱田5-6-1
Tel : 048-523-6291
Fax : 048-523-6468

◆ 今回のテーマ ◆

インターネットに接続すれば沢山の情報が簡単に手に入る現代。スマートフォンに話しかけ、検索エンジンに一言二言入力。一瞬で答え候補がいくつも出てきます。SNS では調べなくとも話題のニュースが流れてきますし、本だって、本屋ですらりと平積みされた本を眺め、ショッピングサイトを検索すればあらゆるものが見つかります。見つからないなんて事はない、と思いませんか？

ところが意外とあるんです。貴方がもっと知りたい、と思ったとき、専門論文や非売品・古い情報や細かな情報を求めだしたとき、検索エンジンが答えを返してくれない分野がきつと現れます。今回は、そんな時にどこを探せばよいのか、はじめの一步のヒントをご紹介します。

◆ 目次 ◆

ヒント1	図書館利用のコツ	-----	それぞれの得意分野
ヒント2	インターネット利用のコツ	--	検索エンジン=インターネット、じゃない！
	*論文を探す先は？	-----	図書とは違う探し方
チェックポイント	古文書を見たい場合	-----	“そのもの”が無いときに探す先
チェックポイント	出典・大本はどこ？	-----	もしくは、引用されていないか？

ヒント1 図書館利用のコツ それぞれの得意分野

一口に図書館と言っても種類があり、実は種類ごとに大まかな得意分野があります。探したい資料によって、利用する図書館を使い分けることで、求めている情報が手に入る可能性が高くなります。

公共図書館：所属する自治体に関する資料（県史・広報誌など）は確実に所蔵

市町村立図書館

ベストセラー・実用本など、市民の関心が高いものを所蔵している。本屋で並んでいる本、広告で見かけた本が気になったら市町村立をチェック！

都道府県立図書館

市町村立図書館にない専門書・学術書(一般に販売されているもの)を主に所蔵していることが多い。また、地方新聞・地域出身者の著作・行政文書などに強みがある。文芸以外の資料が欲しいときや、地域に関する調べものならまずはこちら。絶版の資料でも問い合わせる価値はあり。

国立国会図書館：刊行資料の最後の砦

納本制度により、国内で出版された本は国立国会図書館に納めることとされている。蔵書量は国内最多。利用方法が少し複雑なことや貸出ができないことには注意。地域資料ではない古い資料を探したい時、市町村立や都道府県立で資料が見当たらなかった時におすすめ。デジタル資料の公開やウェブサービスも充実しているので、そこからまず確認することも可能。

大学図書館：公開された最新の論文・電子ジャーナル・最先端の研究分野

研究資料、電子ジャーナルや論文を読みたいのであれば、大学図書館の門を叩くのがおすすめ。広く一般の利用を想定した公共図書館では、書籍化を待てない速度で刻々と変化する最新分野や、専門性の高い電子ジャーナルの契約は少ない傾向にある。その点、研究者や学生を支えるためにある大学図書館では、常に最新の研究情報が手に入る環境を提供している。会員制の電子ジャーナル等、学外者の利用が難しいものもあるが、蔵書を一般に公開している大学図書館もある程度存在する。多くの図書館はウェブページで学外者の利用方法を公開しているので、チェックしてみよう。

○番外○ 専門図書館・資料室

上記の図書館で見つからなかったときは、その分野の専門図書館がないか探してみましょう。また、図書館でなくとも、大手企業や研究所は独自の資料室や社史（施設史）編纂部門を持っていることが多くあります。保存・公開されている資料がないか確認してみましょう。

ヒント2 インターネット利用のコツ 検索エンジン=インターネットじゃない！

「検索エンジンで検索したが情報が出てこなかった」=「インターネット上に情報が無い」ということではありません。まずは「他のキーワード」や「違う言語」で様々な「組み合わせ」を試してみましょう。また、インターネット上には様々な分野の情報を纏めたデータベースが存在します。これらのトップページの多くは検索エンジンで検索可能ですが、中身までは検索されない場合もまた多くあります。埼玉県立図書館では、調べものに役立つサイトやデータベースのリストを公開しているので、是非チェックしてみてください。（《調査・研究に役立つリンク集》（<https://www.lib.pref.saitama.jp/reference/hint/cat/link-site.html> 埼玉県立図書館））

■コラム■論文を探す先は？ ～雑誌記事・リポジトリ～■

論文（研究結果）を探す時には、本を当てにするのではなく、雑誌記事や機関リポジトリを探すと見つかりやすくなります。《国立国会図書館サーチ》（<https://iss.ndl.go.jp/> 国立国会図書館）の「記事・論文」や《CiNii Articles》（<https://ci.nii.ac.jp/> 国立情報学研究所）などで検索してみましょう。

機関リポジトリとは、主に大学等の学術機関が大学の構成員の作りだした電子情報を保存整理しているデータベースです。雑誌に掲載されていない修士論文・博士論文や、所属研究者の論文を検索して読むことができます。「〇〇大学 リポジトリ」等で検索してみるとよいでしょう。知りたい情報の研究者がわかったら、まずは所属機関を確認するのも手です。

ここまでは、「どこを探せばよいか」のヒントをご紹介してきましたが、探したいものによっては直接それ自体を探すのが難しいことがあります。そういった場合に「何を探せばよいか」について、チェックポイントをご紹介します。

チェックポイント

古文書を見たい場合

古文書や古書など、それそのものが一般に流通していないと考えられる資料が必要となった場合、まず何を探せばよいのでしょうか？

そういった場合、例えば図書なら、「影印本（えい いんぼん）」（古文書等の複写をそのまま製本した資料で、筆跡や印なども確認することが出来る）や、「県史」「市史」の資料編（古い地域資料や行政文書が多く収録されている傾向がある）がお勧めです。

また、東京大学史料編纂所（<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/> 東京大学史料編纂所）の提供するデータベース群や、国立公文書館デジタルアーカイブ（<https://www.digital.archives.go.jp/> 国立公文書館）でも多くの資料を探ることが出来ます。

チェックポイント

出典・大本はどこ？

ある資料の内容や、ウェブサイトに掲載されていた文章が事実かどうか知りたい、といった場合は、参考文献を辿ることで大本の出所を探ることが出来ます。（※参考文献：本や記事を執筆する際に引用したり、内容を参考にした文献のこと。ウェブサイトの場合は引用力所の前後や最下部、書籍では多くの場合章の終わりや巻末に纏めて情報が掲載されています。）原資料がわかると、確かめるべき他の資料の年代がわかる、更なる関連文献を探すのが容易になる、等の利点があります。また、逆にその文献がどれだけ他の資料に引用されているかを確認することで、その論の影響や支持を量ることもできます。内容について調査する際は、参照関係を確認してみましょう。